

出雲更生保護女性会だより

令和5年度の出雲更生保護女性会総会を、4月24日(月)四絡コミュニティセンターで開催しました。今年度は役員改選の年です。総会をもって新役員に交代しました。

新役員は、下記のとおり(敬称略)です。

顧問 : 鐘築章恵・加藤澄子・嘉藤馥美
会長 : 鶴原栄美子
副会長 : 吉川京子・雲藤芳子
監事 : 安喰公美・打田美喜子
事務局 : 青木久美子・児玉宏子

任期は2年です。
2年間、どうぞよろしく
お願いいたします。



▲新役員と各地区理事のみなさん

新会長あいさつ 「心ひとつに楽しい活動を」 鶴原栄美子

本年度より会長を務めさせていただくことになりました。昨年60周年を迎えたこの会の先人方の思いを大切にしつつ、会員119名で新たな10年に向かってスタートを切ったところ です。

コロナ禍で制限のあった活動が戻ってきています。保護司会や県更女との交流、暑い中での「愛の募金」活動。本当にお疲れ様でした。そして10月には更生保護施設「しらふじ」への研修も計画されています。

私達がめざす犯罪のない住み良い明るいまちづくりと心育ては、地域の中での地道な活動を通して更生保護女性会を知ってもらうことで伝えていけると思っています。

活動で得た日々の喜びをエネルギーにして楽しい活動をしていきましょう。どうぞ、今後ともよろしくお願いいたします。

旧会長 退任のあいさつ

嘉藤 馥美

令和2年3年4年と会長を務めさせていただきました。令和2年度の準備をしているとき新型コロナウイルス感染症が拡大となり、感染拡大を予防する「新しい生活様式」の定着が求められ、活動に戸惑いもありました。愛の募金活動についても会員の皆様と訪問先の皆様の健康被害に対する不安と安全に考慮し、令和2年の「愛の募金」活動は自粛しました。

また令和4年には結成60周年を迎えましたが、会員の皆様の熱意と努力と絆で記念事業を実行することができました。更女の会は前向きであり、心ひとつであることを改めて確信いたしました。今では宝物となっています。

更女の飛翔を念じ、皆様のご厚情に心より感謝申し上げます。

令和5年度出雲更生保護女性会総会では……

更生保護女性会



松江保護観察所所長の藤井淑子様から祝辞をいただきました



永年会員(30年、15年)に鶴原新会長から感謝状を贈呈しました



出雲市出身の声楽家青山恵子さんが、「子どもたちに歌い継ぎたい日本の歌」という演題で講演をしてくださいました。

歌の背景にあるお話を聞き、きれいな声で聞かせていただいた歌は心に響きました。

子どもたちが道を外すことなく成長していくために、私たちにできることは何かを考えさせられたひとときとなりました。



歌の伴奏は、ドイツでプロのピアニストとして活躍されていた鈴木務津美さんにお世話になりました



総会に準備から関わっていただいた今年度新理事の感想

《鳶巣地区》 細木みゆき

令和5年度総会において声楽家の青山恵子様講演がありました。声楽家では日本初の博士号を取得されました。又地元出身ということもあり思い出話には共感するところが沢山ありました。その中で披露していただいた歌はすばらしく楽しく心に染みて時間が経つのが早く感じられました。私も子供の頃歌い、子供達、孫達と歌った曲が多くありました。まさに歌はいつまでも心に残る宝物だと思いました。これからもこの宝物を大切に歌い継いでいきたいと思います。

最後に新理事として初めて総会の準備等に参加させていただきましたが、理事の方々の団結力と行動力の強さを感じました。

《乙立地区》 今岡恭子

このたび受賞された皆様おめでとうございます。長い間安全安心な地域作りに貢献してこられたことを思うと頭が下がります。

今年度から理事で初めて総会の準備に参加させていただきました。看板の設営やピアノの移動等周到な準備を目の当たりにして役員の皆様の情熱とパワーに感心するばかりでした。皇后宮御歌斉唱し厳肅な雰囲気の中総会のあとは、声楽家青山恵子さんの「子供達に歌い継ぎたい日本の歌」童謡・唱歌を拝聴し、素敵なお声・ピアノの演奏にいつしか音楽の世界に入り込み励まされ癒されたひとときでした。会員の皆様との出会いに感謝です。ありがとうございました。

今年度は、3人の新会員を迎えました

《塩冶地区》 森山美和子

令和5年4月に入会させていただきました。これまで「愛の募金」活動を通して図書券を頂いておりました。子ども達も大好きな本を広げ大変喜んでおりました。しかし活動についてはあまり認識がなく、このたび入会にあたり冊子等を読み少しずつ知ることができました。

会員として様々な活動の学びを広げ、微力ながらお手伝い出来ればと思っております。どうぞ、よろしくお願いいたします。

《神門地区》 花田美香

この度、出雲更生保護女性会にご縁をいただき、入会させていただきました花田美香と申します。生まれも育ちも神門地区です。これまで数多くの方々にお世話になり、今日を迎えることができました。

この感謝の気持ちを、何かの形でご恩返しが出来ればと考えております。微力ではございますが、どうぞよろしくお願いいたします。

《川跡地区》 足立美恵子

退職して12年。地域の活動を通して多くの方々とふれ合うことに喜びを感じている日々を送っています。そのような時に、更生保護女性会へのお声を掛けていただきました。ある地域の活動をテレビのニュースを通じて多少知っていたつもりでしたが、殆ど知らないまま、初めて総会に参加させていただきました。永い歴史の下で地道に活動されていることに感服するとともに、皇后宮御歌に身が引き締まる思いが致しました。

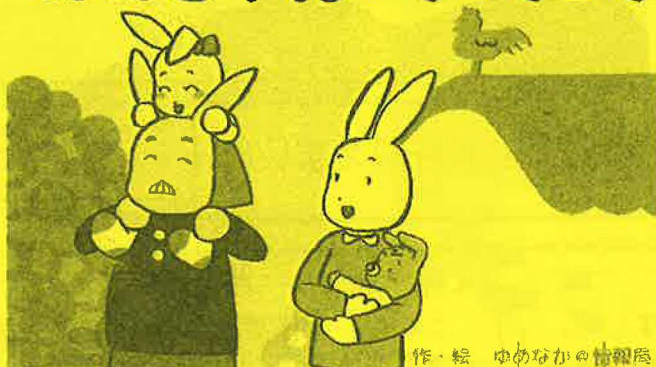
私に出来るのだろうかと思う私の背中を押してくれたのは、「楽しみながらしよう」という地域の先輩の方の言葉でした。まだまだ微力な私ですがよろしくお願い致します。

紙芝居「ミミちゃんのとてとて」をご存知ですか？



長浜地区で夏休みに小学生対象に開催された修養の集いの際、長浜の更生保護女性会会員の皆さんは、紙芝居と大型絵本の読み語りを行いました。紙芝居は「ミミちゃんのとてとて」でした。子どもたちの真剣なまなざしに、活動の成果が垣間見えます。

ミミちゃんのとてとて



作・絵 ゆめなかの情報局

➤うさぎのミミちゃんは、折り紙とお母さんに本を読んでもらうことが大好きな女の子。4人家族で楽しく暮らしていたのに、お父さんが病気になり、お母さんがとても忙しくなってミミちゃんに関わることができにくくなりました。そんなとき、ミミちゃんの心に悪魔のささやきが・・・

ミミちゃんがお店からお金を払わないで折り紙を持って帰ろうとした行為に対し、お店のヤギお婆さんの対応とお母さんの愛がミミちゃんの心を救うお話です。どこの家でも起きるかもしれない事件。子どもの心と大人の愛について考えさせられるいい紙芝居です。

出雲更生保護女性会と紙芝居「ミミちゃんのとてとて」

出雲更生保護女性会会員が、平成28年度の研修で広島に行った際、出会ったのがこの紙芝居でした。研修に参加したメンバーは、出雲の子どもたちに見せてあげることができるよう「貸出用紙芝居」を作成しようと考えました。そして、広島のボランティア団体で、この紙芝居の製作者である“ゆめなか@情報局”からデータを提供してもらい、子どもたちへの読み語りに使える紙芝居ができあがりました。

当時の理事の皆さんが何日かけて作った紙芝居は3作品。「ミミちゃん……」のほか、「マックんとプーちゃん 夢の町三丁目」「お婆ーの朝ごはん」があります。

この紙芝居を利用したい方は、出雲市社会福祉センター(今市町543番地)3階の保護司会事務局(TEL 22-7190)に貸出しの申込みをして、ご利用ください。